学校と地域の歴史といま

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部　人間関係学科　　准教授　　杉浦　由香里
研究分野　：教育学、教育史

地域における教育的営みを歴史的かつ現代的視点から研究しています。学校に行けない・行かない子どもたちが増えつつあるなかで、子どもの人権や子どもの権利条約を学校や社会に根付かせることが大切だと考えています。

■自治体史編さん事業

平成の大合併を経て再編された自治体において、新たに自治体史編さん事業が行なわれてきました。三重県の伊賀市をはじめ、愛知県の豊田市や西尾市の自治体編さん事業に携わり、各地域における近代教育史の執筆を担当しています。現在は、『愛知県教育史』の編さん事業に関わり、戦後の義務教育制度のあゆみをまとめています。

■学校と地域に関する歴史的研究

どのような地域的要請を受けて学校が設立されていったのか、その歴史的過程を研究しています。明治前期に中学校が形成されていく過程や、昭和期に各町村で実業補習学校が設立されていく過程を明らかにしながら、学校と地域をめぐる力学を考察しています。滋賀県の中学校形成史では、滋賀県立彦根東高等学校所蔵資料を活用・翻刻させていただき、彦根中学校が成立していく過程を明らかにしました。



■地方教育行政に関する研究

戦後、教育の地方自治の原則から教育委員会制度が新たに発足しました。しかし、地方教育行政のあり方は戦後改革期から今日まで揺れ続けています。特に、2006年の教育基本法改定によって教育の直接責任性が削除されて以降、再び地方教育行政改革が進められ、首長による権限が強まり、教育行政の自律性や独立性・専門性と教育の素人統制をどのように調和させていくのかが改めて問われることになりました。

こうした地方教育行政をめぐる諸問題の原型を明らかにするために、明治前期の地方教育行政の成立期まで遡った歴史的研究に取り組んでいます。また、歴史研究によって得られた知見をもとに、現代の地方教育行政のあり方を問い直し、教育の直接責任制をどのように再構築していくのか、探究していきたいと考えています。



＜特許・共同研究等の状況＞
『伊賀市史』編さん事業（2010～2015年）、『新修豊田市史』編さん事業（2007年～現在）
『愛知県教育史』編さん事業（2016年～現在）、『新編西尾市史』編さん事業（2019年～現在）